
バスに乗ったら

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バスに乗ったら

【Nコード】

N0024J

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

私はバスに乗る時、決まって同じ場所に座る。

いつもそこは私の指定席という訳ではないのだが、乗り物酔いの激しい私にとってはそこは絶対に譲れない席なのである。

バスの右後方のタイヤの上の席である。

私はバスに乗る時、決まって同じ場所に座る。

いつもそこは私の指定席という訳ではないのだが、乗り物酔いの激しい私にとってはそこは絶対に譲れない席なのである。

バスの右後方のタイヤの上の席である。

一般的にタイヤの上の席は揺れが少なく、酔いにくいとされている。もちろん右後ろである必要は無いのだが、そこは気持ちの問題というか、そこが私にとって一番居心地がいい場所なのである。

もしかしたら酔い止めをしっかり飲んでいる私は、他の席でも酔わないかもしれない。

けれども、やはりそこも気持ちの問題で、安心感が違うのである。

酔うのは、要は気持ちの問題なのである。

私はいつもバスに乗ると遠くの空を眺め、雲を数える。

近くの景色を見ていると酔いやすいらしいので。

あいにく今日は雲ひとつない空で、ぼんやりと青い空を眺めていた。何でこんな良い天気学校の遠足があるのだろうかと思ふ。

そう、学校の遠足で、高原へ行くことになっていた。

こんな良い天気な日には遠足なんかよりも、もっとすることがあると思う。

例えば・・・うーん・・・思いつかないが、何かあるはずである。

私が良く分からないことを考えていると、隣で友人がいきなり叫んだ。

「あっ!? UFOだ」

「え?! どこ?」

私は青空の中を目を皿にして探したが、空飛ぶ皿は見つからなかった。

「どこにいるのよ。UFO」

「違う、違う。そうじゃなくて」

友人はカップ焼きそばを嬉しそうにカバンの中から取り出し、私に見せた。

「もしかして、それがお弁当？」

「うん。そうかも。うちの弁当、手え抜き過ぎだよねー」

何だか友人が哀れに見えるのだが、そんな事を気にする様子も無く、けらけら笑う友人。

果たして友人は高原の何処でお湯を調達するつもりなのだろう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0024j/>

バスに乗ったら

2010年12月29日23時11分発行